

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610510087		
法人名	医療法人 藤野会		
事業所名	グループホーム成田		
所在地	徳島県美馬市脇町拝原2573-1		
自己評価作成日	令和4年12月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和5年1月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍においても隣接している協力医療機関との連携で迅速かつ適切な医療を受けられる体制が整っている。また、利用者の状態を詳細に把握している看護師の協力で当施設の介護職員は利用者個々の医療的な相談や指導を受け緊急時に備えることが出来ている。  
 コロナ禍においても、利用者を楽しみを持って過ごして頂ける様に、職員の能力や得意分野を活かして、新しい取り組みを模索し実践しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田畑や民家に囲まれたのどかな場所に位置している。近隣には、同一法人の運営する協力医療機関があり、迅速に必要な医療を受診できる体制を整え、利用者や家族等の安心に繋げている。重度化や終末期においても、協力医療機関と連携を図り、可能な限り、利用者や家族等の希望にそなうことができるよう取り組んでいる。年4回、法人全体と事業所独自で避難訓練を行うなど、災害時に備えている。事業所内で勉強会を行い、新たに、“フェーズフリー”の考え方を学び、日用品を活用するなど、備蓄品に反映している。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、利用者が住み慣れた地域で、馴染みの関係性を活かしつつ、“わが家での安心した暮らし”ができるように支援に努めている。職員の得意分野を活かし、新しい行事やレクリエーションを取り入れるなど、楽しみをもって過ごすことができるよう工夫している。職員一人ひとりが事業所全体の雰囲気を大切にすることで、利用者の安心や穏やかな暮らしの支援に繋げている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議において理念に沿ったケアが出来ているかの確認をいつも目の届く所に掲示して常に意識づけをしている。	事業所では、地域密着型サービス事業の意義を踏まえ、全職員で話しあい、理念を作成している。職員会議の機会に、理念にそった支援ができていないか、現状の確認を行っている。また、定期的に理念を見直す機会を設けている。新人職員には、研修で理念について伝えるなど、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において以前のように外部との交流は出来ていない現状ではあるが、感染対策を遵守しての近所の理容店による出張散髪を行っている。散歩時に挨拶を交わす等、近隣住民との交流は続いている。	事業所では、ボランティアの来訪を受け入れるなど、地域と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、近隣住民から差し入れを受けるなどしている。散歩の際には、近隣住民と挨拶を交わしたり、差し入れのお礼を伝えたりして、繋がりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、地域の方との接触は極力控えているが、近隣の方から季節の野菜や果物を頂いたりして有難く頂いている。また、散歩時に感染対策に考慮してお礼を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においてご家族、地域住民、行政、他施設等各分野の方々にご参加は頂けないが、2ヶ月に1度事業所で開催した内容をご報告し、ご意見を頂いている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、事業所内で行った会議について、書面にまとめ、各委員へ手渡ししている。管理者は、事業所の報告について、各委員から意見等を得て、双方向的な会議にすることを目指している。	今後は、事業所の報告について、意見や提案を得ることができるよう各委員に働きかけられたい。出された意見について職員間で話しあい、サービスの質の向上に繋げることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月状況報告を行っており、その際に現状報告や相談を行いご意見やご指導をもらっている。	管理者は、定期的に、市担当窓口を訪問し、事業所の現状報告や情報交換を行っている。事業所の課題や困難事例について相談し、助言を得ることで解決に繋げるなど、連携体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則身体拘束は行っていない。緊急やむを得ない場合は管理者、家族、職員を交えて協議を行い必要最小限に済むように努めている。	事業所では、月1回の身体拘束廃止委員会で身体拘束に関する話し合いを行っている。拘束に繋がるような危険を回避できるよう動線を確保するなど、安全に配慮している。日中は、玄関を解錠し、見守りによって、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については法人の安全管理委員会とも連携し、マニュアルの作成や勉強会の実施で職員による虐待の徹底防止に努めている。また、職員間で不適切なケアがないかチームで確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度の利用者が1名おり、職員においては勉強会に参加するなどして制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項や事業の取り組みについて説明し、同意を得ている。不明な点はその都度面談等で質問や相談をお受けしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や何か変化があれば直ぐに電話をして現状報告、意見交換の場としている。	事業所では、家族等の来訪時に、意見等を聞きとっている。感染症の流行下において、事業所だよりの発行回数を増やしたり、電話での状況報告を行ったりして、家族等とより良い関係性を構築することで、意見等を引き出している。把握した意見について、職員間で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回、個別面談にて職員の意見や提案を聞き取り、運営に反映できるように努めている。	管理者は、日ごろから職員の意見や提案を聞く機会を設けている。月1回、各種委員会の機会を利用し、意見等を聞いている。また、定期的に個別面談の機会を設けている。出された意見等は、職員間で話しあったり、代表者に伝えたりして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の長所と短所を把握し、適材適所の業務担当を与えることで働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を奨めて能力向上に努めている。また、意欲的な職員は、資格取得に向けての支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、グループホーム連携会議は中断しているが、困りごと等電話相談できる顔馴染みの関係は続いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の見学説明においてリロケーションダメージの軽減に努めている。また、ご本人やご家族の要望や生活環境の聞き取りを行い、自宅のようなリラックスした空間の提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望を聴き、そのニーズに合った支援方法を模索し実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居した利用者のご家族に何が必要なのかをアセスメントし、職員がチームとして最適な支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の尊厳を第一に考えパーソンセンタードケアに基づき、共に支え合い助け合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に協力を得ながら本人をサポートし、必要に応じて報告相談を行っている。本人、家族、職員が相互信頼できる関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でも教え子やご近所さん県外のご家族様の関係が途切れないように、感染対策を行い出来る限りの支援を行っている。	事業所では、感染症の流行下において、利用者と友人・知人とのガラス越しでの面会を支援している。電話や年賀状のやりとりも支援している。馴染みの理・美容院が来訪できるよう連携を図るなどして、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、利用者間のトラブルを未然に防ぐことで共同生活の場で楽しく過ごせるように配慮している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となり退所されたとしても相談を受けた際は必要に応じてフォローし今までの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で本人の思いや意向を傾聴し、把握に努めている。コミュニケーションの困難な方については表情や行動の僅かな変化を見逃さないように努めている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、利用者の希望や意向の把握に努めている。利用者が意見を伝えやすい雰囲気づくりにも努めている。利用者の意向等を把握するために注意することなどを新人職員へ伝えるなどして、組織的に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーには配慮しつつ、これまでの生活歴、家族構成などの情報を本人及びご家族からお話を聴いて適切な支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の残存機能や生活リズムを観察し、個々に把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を開催しそこで出た意見を基に介護計画を作成している。	事業所では、利用者や家族等の意向を尊重し、好きなことや得意分野を活かした介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、計画を見直している。また、利用者の心身状況の変化に応じて、家族等と情報共有・相談しつつ、見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子や身体的状態等を記録し、その情報を基に職員間で話し合い、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の思いを大切に、ニーズの変化に柔軟に対応できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではあるが、感染対策を遵守し地域の理容店に出張散髪に来てもらうなど、良好な関係を継続するとともに地域の方々のつながりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は協力医療機関だけでなく、利用者の希望により他の医療機関での受診も出来るようにご家族と相談、ご協力の上、支援している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診は、家族等と連携している。協力医療機関とは、夜間や緊急時の連携体制を整え、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の担当看護師に利用者の情報提供を密に行って医療面での対応について相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に利用者の情報提供を行っており、速やかな入退院に対応できる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては本人やご家族の意見を早期から把握し、主治医も交えて話し合いながら支援できる体制を整えている。	事業所では、入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における希望を確認している。本人の心身状況の変化に応じて、意向を再確認し、医療機関とも対応方針の共有化を図っている。必要に応じて、協力医療機関の看護師の来訪がある。年1回、ターミナルケアに関する勉強会を行い、本人や家族等の希望にそった支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関の看護師による勉強会に参加するなど、急変時や事故発生時の具体的な対応について備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体及び事業所単独での防災訓練を実施している。又、地域の方への支援や連絡体制を築いている。	事業所では、年4回、火災や立地に応じた災害を想定した避難訓練を実施している。地域住民に、避難時の協力を依頼し、緊急連絡網にも記載している。新たに、“フェーズフリー”の考え方を取り入れ、日用品を多く備えるなど、事業所の状況に応じた備蓄品の確保に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーの侵害となるような態度や言葉がけにならないように職員間で確認し合い、実践している。	職員は、日ごろから利用者に対する言葉づかいに注意を払い、支援に努めている。事業所では、プライバシー保護に関する勉強会を実施し、サービスの質の向上に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が職員に気兼ねなく話せる雰囲気を作り、自己決定できる機会を意識的に作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務優先で利用者の生活リズムを乱すことのないように利用者個々のペースや過ごし方を大切に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日中パジャマで過ごすことのないように支援している。行事の際には好みの服と一緒に選んだり、整容や化粧も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように季節の食材を用いた献立を提供している。また、状態に合わせて食べやすい軟菜やお粥に変更したり、栄養補助食品なども取り入れている。準備、片付け等も出来る方にはお願いしています。	事業所では、利用者一人ひとりにあわせて、食べやすいように軟菜やお粥に変更するなどして、食事を提供している。誕生日や行事の際には、目で見て楽しむことができるようお重に盛りつけたり、お寿司を提供したりして、食の楽しみを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の疾患、栄養状態を把握し、栄養補助食品も活用しながら無理なく栄養、水分を摂取出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせた口腔ケアを行っている。口腔内、義歯に異常があれば協力歯科医療機関に受診できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、適時にトイレ誘導を行ったり、夜間はポータブルトイレを活用したりして少しでもオムツ内への排泄が減らせるように支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。個別の排泄方法について、家族等の意見を踏まえつつ、職員間で協議・検討するなど、一人ひとりの状態に応じて、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認を行い、無理なく水分摂取量を確保できるように飲み物を工夫して自然排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を聞きながら快適かつ安全に入浴が出来るように支援している。体調不良等で入浴が困難な場合は清拭、陰部洗浄等で身体保清に努めている。	事業所では、利用者一人ひとりの希望に応じて、入浴を支援している。同性介助を行うなど、羞恥心に配慮している。入浴を拒む利用者には、時間や日を変えるなどして、無理強いすることなく支援している。季節に応じて、菖蒲湯やゆず湯を行い、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操や軽作業で日中の活動量を増やし、昼夜逆転が起こらないようにしている。リネン交換も細目に行い、良質な睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報をカルテにファイルし確認できるようにしている。誤薬防止の為、服薬時には声出し確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力量にあった役割を持っていたり、毎日の生活が張り合いのあるものになるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であるが、その時々でドライブや季節の花々を見たり、運動を兼ねての施設周辺の散歩など外出支援を行っている。	事業所では、日ごろから事業所周辺の散歩に出かけるなど、外出を支援している。季節に応じて、近隣の花見にも出かけている。また、自宅周辺へドライブに出かけ、景色を楽しむなど、外出方法を工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望によりご家族の了解を得て少額のお金を持ってもらっている。移動販売等での買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望すればいつでも電話をしたり、手紙を出したり出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では照明・空調などに気を配り、快適に過せるように配慮している。また、行事写真の掲示や季節ごとの飾り付けで季節感を演出している。	共用空間は、空調に注意を払い、利用者が快適に過ごすことができるよう支援している。利用者と一緒に作成した、季節の作品や花を飾り、季節感や温かみのある空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で新聞を読んだり、共有スペースでテレビを観たり、皆で歌を唄うなどそれぞれが居心地良いと思えるような場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた愛着のあるものを持参してもらい、ご本人一人ひとりの好みに合わせた安心できる居室環境づくりに努めている。	居室には、利用者の馴染みのものや好きなもの等を持ち込んでもらっている。持ち込むものが少ない利用者については、職員が本人の作品や写真等を飾るなど、温かく居心地のいい雰囲気づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、車いす、シルバーカー、歩行器等を使用し安全かつ自由に行動出来るようにしている。また、過剰な行動制限は行っていない。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で職員同士で理念の確認をして常に理念を持ってケア出来るように心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域の理容店を利用して地域の方とのつながりを感じてもらえるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元学生の体験学習の受け入れを行い、「介護」「認知症」についての理解を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においてご家族、地域住民、行政、他施設等各分野の方々にご参加は頂けないが、2ヶ月に1度事業所で開催した内容をご報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様のケアをより良く行うために「知らない」「分からない」を無くす為にその都度直ぐに連絡、相談し日々のケアに取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、施錠など拘束につながる行為にならないようにケアを工夫したり、そのケアの周知を徹底する。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間での虐待についての勉強会や資料の回覧を定期的に行い、虐待防止のための知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員一人一人が支援事業や制度に関心を持ち、理解し対応できるよう勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にしっかり説明しその後も様々なことで疑問点などがあればいつでも相談や質問をお受け出来ることをお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしているが日頃から利用者のご家族の方の意見に耳を傾け意見を発しやすい環境が作れるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や相談事があればその都度面談をしその意見など反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人一人の個性や能力を把握・理解し年間目標なども知る事で働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の参加機会を設け、参加してもらうことで職員の知識や能力の向上につなげてもらうよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連携会議に出席し参考にしたいことがあれば積極的に質問しサービスの質の向上につながるよう努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わる事の不安を取り除けるよう環境整備やその方をよく把握しその方に合ったケアが出来るよう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に「今困っていること」を具体的に家族に聞き、またご本人のことをより深く情報共有する事で家族と同じ気持ちになれるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が訴え可能ならばご本人から、困難であれば家族から聞き必要なケア、それに伴うケアを話し合い見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様を自身家族のように思い考え、また人生の先輩として尊厳を大切に日々関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は特にキーパーソンの方とはより密に近況報告を行いどのようなことでも相談して頂けるような関係を築いていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の方が利用されている他院を利用するのではなく本人様が昔から馴染んでいる病院や商店の利用を出来るように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士間に職員が入り、「潤滑油」になる事で仲をつなぎ「家族」ような存在になるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	2階ユニット「藍」	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅や他施設に移る、またその他の理由で利用を終了しても何か相談があればその都度話し合いを行い、一度できたご縁を大切にしよう努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全く同じということは当然あり得ないのでご本人の思いを一番に考えご家族の意向と照らし合わせて把握、検討出来るよう努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人又はご家族より、どのような半生だったかをお聞きし、また他施設等での利用経過を把握してより良いケアが出来るよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の場合でつぶさに観察を行い心身の現在の状態や残存機能の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要に応じてDr、NS、PT、OT等スタッフと話し合い「今」を大切にケア出来る介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化する状況を記録共有しケアに活用できるようフィードバックしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれることなく、その方にあった最善なサービスが出来るよう柔軟な考えや対応を取り入れるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店を利用することにより本人が安心して今までに近い暮らしが送れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、ご本人が望む必要な医療機関をこちらも大切にしながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と普段より連携を密にし、ご本人に適切な医療サービスが受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と日々密に情報共有し、いついかなる時でも即対応できるように関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が重度化またはターミナルケアが必要になった時困らないようになるべく早い段階より家族、本人と話し合い、本人と家族が安心できるサービス提供に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や院外研修、又実際に発生した事例を基に対処方法を周知把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人、当事業所で定期的に訓練を実施している。利用者の安全を第一に考え体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、おむつ交換、衣類の着脱介助等、十分プライバシーに配慮し、個人の尊厳を傷つけないように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「〇〇が食べたい」等希望があれば可能な限り提供し、また一緒に買い物に出かけることでご本人に選んでいただくよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日は絶対に〇〇しなくてはならないという考えを持たず、一人一人のペースを大切に出来る限りご本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、外出時、起床時にご本人に衣服を選んで頂き、納得した気持ちで生活が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の摂取能力に応じて色々な形態で対応を行い、又家族と連携し好物を用意するなど「食」を楽しんで頂けるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の主治医に相談し必要があれば栄養補助食品を利用し栄養、水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろんご本人の訴えを聞き漏らすことのないよう十分注意し、異常があれば専門医受診の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用されている方も日中トイレ使用が可能なら介助にてトイレでの排泄をして頂き、少しでも自立出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の回数を増やす食の改善、腹部マッサージの取り組み、また実際にトイレにて力んで頂く等、その人に合ったケアに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人がのぞむタイミングで入浴をして頂けるようその都度声かけ等させて頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限り離床して頂いているが、状態に応じて休んで頂いたり夜間もなかなか眠れない場合は寄り添い安心していただくことで安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関のDr、NS、薬剤師からの指導や注意事項をしっかりと理解したうえで指差し確認、呼名等、安全にも十分配慮し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の特技(衣類たたみや台所の片付け等)をしっかりと把握したうえで役割を持って頂き時には気分転換や楽しみになれるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩等希望があれば出かけられるよう支援している。(コロナの状態が落ち着けば家族、地域の協力も支援に盛り込めるよう考えている。)		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かっているお金とは別にご本人に希望があれば所持して頂き、日用品や食品を購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、本人が希望であれば携帯電話の所持をして頂いたり、本人の希望時には事業所の電話を使用できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の照明にはトイレとホールの電色を変えるなど配慮している。また、加湿付き空気清浄機も活用しながら環境整備に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席にて食事を一緒に摂っていただいたり行事を楽しんだりする時は、テレビを前にあるソファで鑑賞して頂いたり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から持ち込みの家具等があり、本人の好みにも十分に配慮して安心できる環境づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のADL、残存能力を把握し、出来る限り安全かつ自由自立した生活が提供できるよう支援している。		